

平成27年度授業づくり拠点校 実践事例

I はじめに

本校は、平成25、26年度に「課題意識をもち、集団の中で他者と関わり高まろうとする生徒の育成」を研究主題として、「学習過程への交流する場の設定」「効果的な交流を成立させる手立て」「多様な言語活動の実践の積み重ね」「言語活動を的確に位置づけた授業実践の工夫」などに取り組んできた。そうすることにより、生徒の学習への興味・関心が高まり、意欲的に発表する生徒が増えてきた。

反面、自ら行動できない生徒や友達と学び合い考え抜く強さや自主的・主体的に取り組む姿勢が足りない生徒の姿が浮かび上がってきた。

(1) 研究主題

「確かな学力向上をめざして、他者と関わり合って学ぶ生徒の育成」  
～授業改善とソーシャルスキルの向上を中心に～

(2) 研究主題設定の理由

本年度は、これまでの研究を継続すると共に、よりよい人間関係の形成に重点を置き、「生徒の課題に取り組む意欲や喜びがわくような活動の場が設定できれば、生徒が自分の良さを発揮し主体的に活動すると共に、自他の向上に貢献しようとする姿勢につながる。」と考え、本主題を設定した。

また、全国学力・学習状況調査や山口県学力定着状況確認問題の結果から、「文章を書く力」「説明する力」「自分の考えを具体的に書く力」「正しく説明する力」が本校生徒の課題となっていることをふまえ、全教科において「書く力」や「説明する力」の向上に努めることとした。具体的には、次の2つをポイントに置いて実践していくこととした。

- ① 条件に従って、自分の考えを書く時間を設定すること。
- ② 問題解決の方法や意味の解釈などを説明する問いで、その文章を吟味する時間や場を設定すること。(伝える文章づくり)

(3) 研究の概要

- ① 授業公開・授業研究
- ② グループ研修 (授業づくり・授業改善 ソーシャルスキル)
- ③ 講師を招いての全体研修

月日	研 修	研 修 内 容
4 月	第1回 全体研修 第2回 全体研修	研修主題、研修組織、研修計画について グループ研修について

5月	第1回 グループ研修 5月13日 校内研修	グループでの研修テーマ決定、今後の活動計画 研究授業（授業者 堀本・兼重教諭）
6月	第3回 全体研修	授業研究と研究協議
7月	第2回 グループ研修 7月7日 校内研修	各グループの計画による 研究授業・県教委学校訪問（授業者 池藤教諭）
8月	第3回 グループ研修 8月10日 校内研修  第4回全体研修 8月25日 校内研修	各グループ、教科部会の計画による指導案検討会 全国学力調査の分析と課題について （学年会 教科部会 全体会 学力向上推進教員 森本由紀子先生から指導助言） 第1回指導案検討会 11月の発表大会に向けて （学習活動とソーシャルスキルに分けて） 講話 学力向上推進リーダー 玖珂中 教頭 福江功至先生 「指導案の書き方について」
10月	第5回 全体研修 10月21日 校内研修  第6回全体研修 10月26日 校内研修	講師を招聘しての研修 やまぐち総合教育支援センター 河野麗子研究指導主事 「思考力・表現力を育てる授業作り」 第2回指導案検討会 11月の発表大会に向けて
11月	第7回 全体研修 11月16日 「授業づくり研究発表会」 第4回 グループ研修	授業研究と研究協議  各グループの計画による
12月	第8回 全体研修	
2月	第5回グループ研修 校内研修	研究授業（授業者 林・大上教諭）
3月	第9回 全体研修	各グループでのまとめと研修成果の共有 研修の反省、アンケートの集計から

## Ⅱ 公開授業指導案

第3年1組 国語科学習指導案

指導者 池藤 壮士

場所 3年1組教室

- 1 題材 いにしへの心と語らう 夏草『おくのほそ道』から(松尾芭蕉)  
本時：《発展》 『おくのほそ道』－「立石寺」
- 2 目標 文語文としての表現の仕方や文体の特徴に留意し、本作品が作られた時代の背景を想像しながら作者のものの見方や感じ方を読み取ることができる。

【学習指導要領：〔第3学年〕 2内容 C読むこと (1)ア・エ (2)ア】

【学習指導要領：〔第3学年〕〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕  
(1)ア－(ア)】

### 3 研究主題との関連

『確かな学力向上をめざして、他者と関わり合って学ぶ生徒の育成』  
～授業改善とソーシャルスキルの向上を中心に～

国語科において、生徒の確かな学力を向上させるためには、基礎的な知識や技能を土台とした言語活動の反復練習が必要である。そのために、導入時の帯的学習や基礎的な知識、技能の定着状況をはかる確認テストに加え、生徒同士が意見交流し、言語表現の幅を広げるための協同学習の場を毎時間設定している。

本単元の学習においても、他者と関わり合う機会を設定し、その場を通して自分の考えや意見を改善し深めることができるような課題づくり、授業づくりをすることを心掛けたいと考える。

### 4 題材のとらえ方

○生徒は協同学習を通して他者と積極的に関わり合っているが、互いの言語表現の良し悪しを意識することはほとんどなく、話し言葉、書き言葉に限らず、言語表現を吟味するという視点に乏しい。

日頃から、生徒は文学的文章や説明的文章の学習において、班活動や学び合いの中でお互い活発に意見交流を行い、登場人物の心情変化や作品主題をとらえたり、筆者(作者)の主張を読み取ったりしようとしている。だが、交流の場における自他の言語表現の良し悪しを意識したり、意見交流の材料となる文章読解において文章表現を深く吟味したりするという視点はもてていない。

平成27年度全国学力・学習状況調査においても、「情報を適切に読み取り、自分の意見を述べる」問題の正答率が低く、話し言葉、書き言葉に限らず、言語表現にこだわる意識に課題が見られる。

○表現豊かな本文や俳句から、作者が生きた昔の時代における人々のものの見方や考え方、感じ方に触れ、味わうことができる教材である。

「いにしへの心と語らう」の単元は、中学校で習う最後の古典単元である。その中で本教材は、三年間で唯一の「紀行文」の古典教材である。また、紀行文とともに俳句が添えられる形となっており、それらを複合的に読むことで、より味わい深い文章となっている。

本教材では、文語文としての表現の仕方や文体の特徴に触れることはもとより、旅自体への思いや旅先での出会いが書き綴られた本文を通して作者特有の感性やものの見方、考え方を学ぶことができる。そして、随所に挿入された俳句がそのような作者の思いを集約したものであることに気付くことで、作品全体をより深く味わうことができる。既習の「俳句の可能性」で学習した内容も生かしつつ、現代の私たちも共感し得る昔の人々の「心」を生徒自身がとらえ、味わうことができる教材であると考えます。

○各時間で協同学習を用いた課題（学習活動）を設定し活動することを通して、本文と俳句のつながりや、そこに込められた作者の思いやものの見方、考え方をとらえる力を育てたい。

単に本文を分析して、意味や文体の特徴をとらえることにとどまるのではなく、本文と俳句とのつながりを考え、そこに見られる作者の感性を生徒自身のもつ感性と比べることができるような課題を設定する。

そして、その課題解決を協同学習を通して行うことで、自分だけでは気付かなかった考えや意見に触れる場をつくりたい。交流を通して、自分の考えを深化させ、作者の思いやものの見方、考え方により迫っていけるような展開としたい。

## 5 指導計画と評価規準（全5時間）

時	学習内容・学習活動 【主となる学習形態】	【主な評価の観点】 主な評価規準 (評価方法)
1	作品についての基礎学習と作品内容の把握 ・作品と作者について知り、学習に対する関心を高める。【一斉学習】 ・本文を分析することを通して、大まかな内容をつかむ。 【個別学習＋協同学習→一斉学習】	【言語についての知識・理解・技能】 ・『おくのほそ道』の基礎知識を覚えることができる。（確認テスト） 【読むこと】 ・分析項目に沿って、本文を適切に分析できている。 (ワークプリント) (発表)
2	俳句の分析 ・俳句「草の戸も住み替はる代ぞ雛の家」における作者の思いの中心がどこにあるかを、本文や言語表現を根拠にして考える。 【個別学習＋協同学習→一斉学習】	【読むこと】 ・その句(「草の戸も」「住み替はる代ぞ」「雛の家」のうち一句)を選んだ理由を、根拠をつけて説明することができる。(ワークプリント) (発表)

3	作者のものの見方や考え方の吟味 ・ 作者が「時のうつるまで涙」を流した理由を考えることを通して、作者のものの見方や考え方をとらえる。【個別学習＋協同学習→一斉学習】	【読むこと】 ・ 文章中の表現（俳句を含む）を手掛かりとして、作品に見られる作者のものの見方や考え方をとらえることができる。（観察）（ワークプリント）（発表）
4	作者のものの見方や考え方についての作文 ・ 俳句三句を踏まえ、作品全体から読み取れる作者のものの見方や感じ方をまとめる。【個別学習＋協同学習】	【読むこと】【書くこと】 ・ 作品に出てくる俳句三句および本文から読み取れる作者のものの見方や感じ方をまとめることができる。（作文）
5 本 時	《発展学習》作者のものの見方や考え方の吟味 ・ 俳句中の「蟬の声」に着目し、そこから俳句の情景をイメージすることを通して、作者のものの見方や感じ方を読み取る。【一斉学習→個別学習＋協同学習】	【読むこと】 ・ 俳句に使われた言葉からイメージをふくらませ、短い言語表現に込められた作者のものの見方や感じ方を読み取ることができたか。（観察）（ワークプリント）（発表）

### Ⅲ 学校全体の取り組みや他教科への広がり（全教科共通）

本校では、岩国中学校プロジェクトを全職員の共通理解のもと、推進しており、プロジェクトによる取り組みと、昨年度までの研修を生かしながら、今後とも研修を継続させていきたいと考えている。

#### （１） 授業改善

生徒の主体的な学びの力、つまり、「課題解決能力」が重要であり、課題解決能力を身に付け、学力を高める生徒を育成するための授業改善に取り組んでいる。短期目標としては、「主体性・協働性を生かした学習」の推進をめざしている。

#### 具体的な取り組み

##### ① 岩国中授業の基礎

##### ア 確かな学力を支えるもの

##### （ア） ねらいの精選

生徒が今日の授業で何を学ぶのか、一目で分かるねらいの明示

##### （イ） 板書の構造化

知識・技能の習得ができ、思考力・判断力・表現力等を育む工夫

##### （ウ） 資料の提示

生徒の知的好奇心を高める資料の提示

- (エ) 発問の明確化  
生徒の多様な考え方を引き出す問い方の工夫
- (オ) 説明の簡素化  
具体的な場面での学習を効果的にする分かりやすい説明
- (カ) 指示の適正化  
生徒にとって何をするのが明確で考える力、話し合いを豊かにする指示
- (キ) 振り返りの精選  
生徒が今日の授業での学びを整理し、学習内容の確実な定着を図る振り返りの作成
- イ 他者との関わりを支えるもの
  - (ア) 机間指導の適正化
  - (イ) ペアグループ活動の充実化
  - (ウ) フリートーキングの活性化
- ウ 生徒に培いたい学力要素
  - (ア) 条件に従って自分の考えを書く力
  - (イ) 説明するための文章を吟味する力
- ② 一人一授業  
授業公開を通して、授業力向上を図ると共に教員としての資質向上を図る。
- ③ 授業参観週間  
互いに授業を参観し合うことで、教師同士が学び合い、授業改善の一助とする。
- ④ 学習環境の整備  
学習の足跡が分かる教室環境づくりを行う。
- ⑤ やまぐち学習支援プログラムの活用  
基礎基本の定着を図る。
- ⑥ 校内研修の充実  
教師力を高める校内研修を実施し、生徒のために教師集団が互いに高め合っていく意識をもつ。

## (2) ソーシャルスキルの向上

思いやりの心を培い、共に活動する生徒を育成していきたい。そのための短期目標として、各教科等で、身に付けたコミュニケーション能力を発揮できるような活動の場を設定していく。

### 具体的な取り組み

- ① ソーシャルスキルアンケートの実施と分析
- ② ソーシャルスキルトレーニングの実施
- ③ より高め合える話し合い、グループ活動設定の工夫
- ④ 生徒自身が「気づき、考え、実行する」場面の設定

⑤ 校内研修の時に、授業を見る視点として設定

ア グループ学習での雰囲気（ほめる、認める、支える・・・生徒対生徒の関わり）

イ 机間指導での声かけ（教師と生徒との関わり）

⑥ 道徳教育の充実と日常実践の推進

今回の研究協議では、初めて「生徒インタビュー」を取り入れた。これは、生徒の生の声を聴くことにより、「振り返り」の改善と意義のある協議をしようと考えたからである。

次は、国語分科会での生徒インタビューである。

Q 「大変スムーズに活動していたが、『立場を決めて書く』という活動は今までに何度かやっていたのか。」

A 「何度かあった。」

「俳句の時にも、やったことがあるので、スムーズにできたと思う。」

Q 「3つの発問の中で、もっと考えたいなあ、と思ったのは？」

A 「しみ入るという言葉についてもっと考えたい。」

「せみの数について、深く考えて発表したい。」

「『しみ入る』について他の友達の見聞を聞いたかった。」

Q 「自分とは異なる立場で根拠を書くのは大変ではなかったか。」

（2種類のワークシートを配付し、その立場で意見や根拠を書くことについて）

A 「あまり考えにくいということはない。今日は自分の立場と同じだった」

「自分の立場とは異なるものだったが、考えていくうちに自分の考えが変わってきた。」

「初めはやりにくいと感じたが、直感で答えるのではなく、むしろじっくり考えることができたと思う。」

Q 「自分の考えが変わってきたのはどのあたりか。」（すぐ前の問いに関して）

A 「自分で何度も考えるうちに変わった。」

今年度の研修を通して、全職員が一つとなり、「分かる授業・楽しい授業」をめざして、授業改善とソーシャルスキルの向上に向けて取り組んでいる。教師自身が、楽しく前向きに校内研修にのぞみ、授業実践を積み重ねることで生徒のよりよい変容を生み出すことができたなら大きな喜びである。今後も確かな学力を育むために、生徒の学習意欲を高めるような魅力ある授業を研究していきたい。

**1 主眼**  
俳句に使われている表現に着目し、それを根拠として俳句の情景をイメージすることを通して、作者のものの見方や感じ方を読み取ることができる。

**2 指導上の留意点**

- (1) 導入
  - ワークプリントのウォーミングアップをする。
  - 電子黒板を使って導入部分を説明する。
  - (2) 本時の目標・課題の把握
    - ワークプリントで本時の目標と課題を説明する。
  - 俳句に使われている表現や本文(原文)をヒントにしながらか読むことを伝える。
  - (3) 「おくのほそ道」一立石寺一を音読する。
  - 起立して音読し、読み終えた者から着席するよう指示する。
  - 音読終了後、本文内容(現代語訳)をワークプリントを用いて簡単に確認する。
  - (4) 「蝉の声」の種類について検討する。
  - 電子黒板を用いて、3種類の蝉を紹介し、その鳴き声を聞かせる。
  - ネームプレートを黒板に貼らせ、数名に理由を発表させる。
  - (5) 「蝉の声」の大きさについて検討する。
  - ワークプリントに示した「単数」「複数」の割り当てと協同学習の活動の仕方について説明する。
  - 生徒の進捗状況に応じて、本文(原文)や俳句の表現を参考にできるように伝える。
  - 机間指導により個別に生徒を支援する。
  - 理由発表の際には、その内容に応じて得点カードを示しながら、タイムリーに評価する。
  - (6) 振り返り
    - 本時のまとめをする。
    - ワークプリントに振り返りを記入させる。

**【評価】**  
俳句に使われた言葉や表現に着目し、そこに表出する作者のものの見方や感じ方を読み取ることができたか。

おくのほそ道一立石寺一

**【発展学習】**

**目標**  
俳句や本文から作者の思いを読み取ろう。

**関かさや 岩にしみ入る 蝉の声**

(課題)  
この時鳴いていた蝉は「単数」か「複数」か? 俳句や本文を手掛かりにして、答えなさい。

**振り返り**      **アプラゼミ**      **ニニニゼミ**      **三三三ゼミ**

ネーム貼り付け      ネーム貼り付け      ネーム貼り付け

**単数**      **ネーム貼り付け**

生徒の発表意見

**複数**      **ネーム貼り付け**

生徒の発表意見

**本時の流れ**

(1) 導入

- ワークプリントのウォーミングアップを使って、本時の学習内容の導入部分を学習する。
- (2) 本時の目標・課題の把握
  - ワークプリントで本時の目標と課題を把握する。

**中心発問** この時、鳴いていた蝉は「単数」か「複数」か?

(3) 「おくのほそ道」一立石寺一の本文を音読する。【一斉学習】  
本文を音読する。(起立して読み、終わった人から着席する。)

・難語の意味を含めて、本文内容を簡単に確認する。

(4) 「蝉の声」の種類について検討する。【個別学習】

- 電子黒板で示された3種類の蝉の声を聞き、この句に最もふさわしいと思われるものを1つ選ぶ。
- ネームプレートを黒板に貼る。全体の選択状況を確認する。

(5) 「蝉の声」の大きさについて検討する。【個別学習・協同学習】

- どのくらい「蝉」が鳴いていたのかを考える。(割り当てられた立場(「単数」または「複数」)に立ってその理由を考える。)
- 同じ立場の人を探し、意見を交換し合う。
- 書き出した理由を発表し合う。(挙手による発表・指導者による指名)
- 最終的な自分の立場(意見)を決定する。

(6) 本時のまとめと振り返り

- 本時のまとめと授業の振り返りをする。